

第十二号書心第二十五号荒就鳥

心

就鳥

書

荒

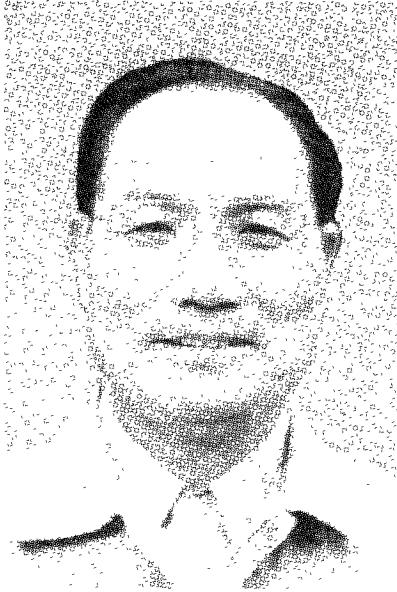
福岡大学々術文化部会書道部

德

無

石
歸

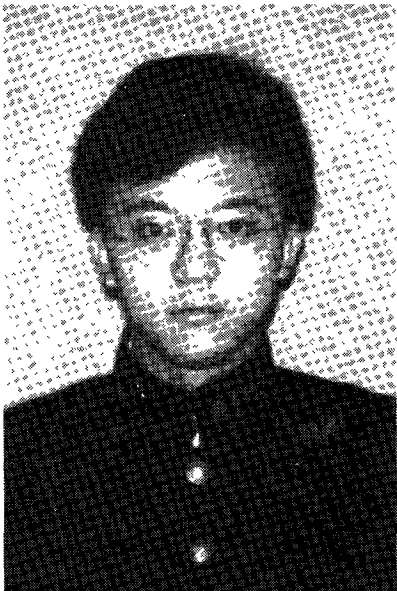
功



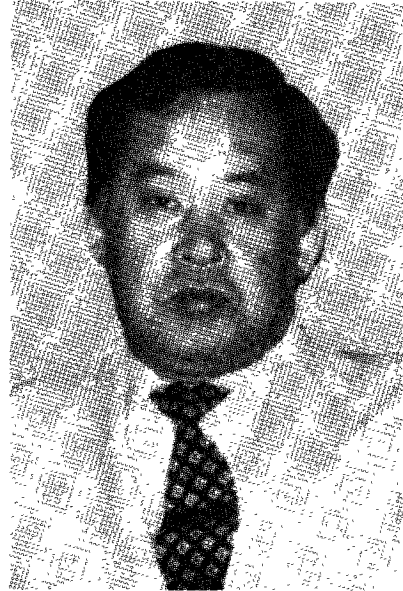
講師 赤木 石掃



部長 佐々木 猛

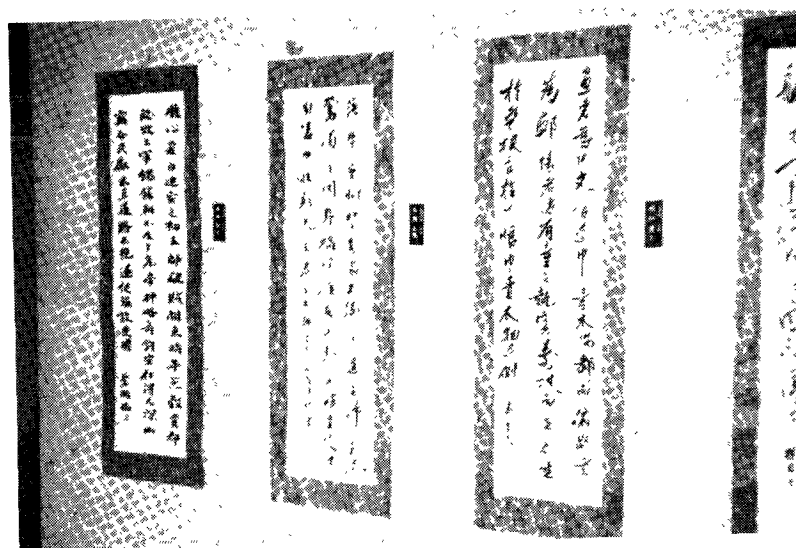


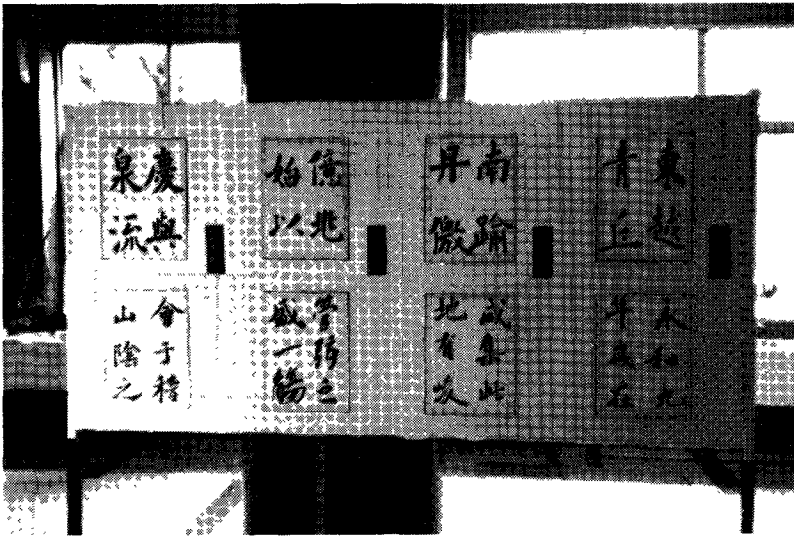
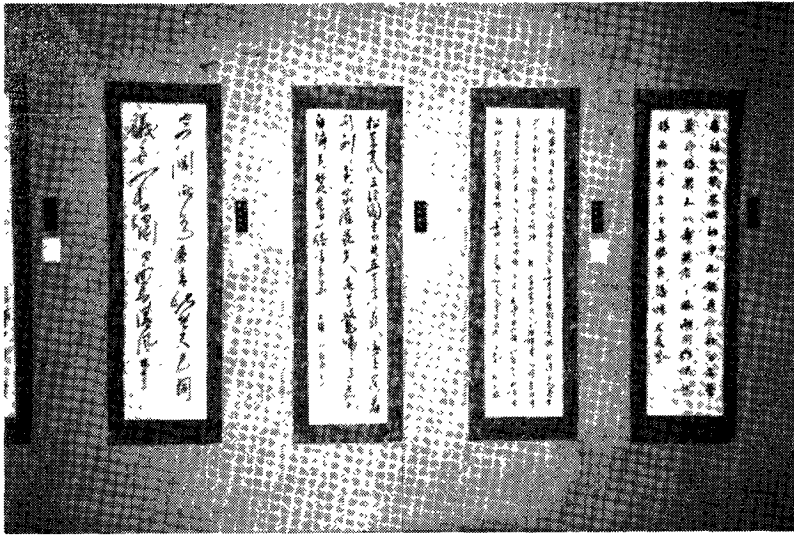
幹事 藤代 裕之

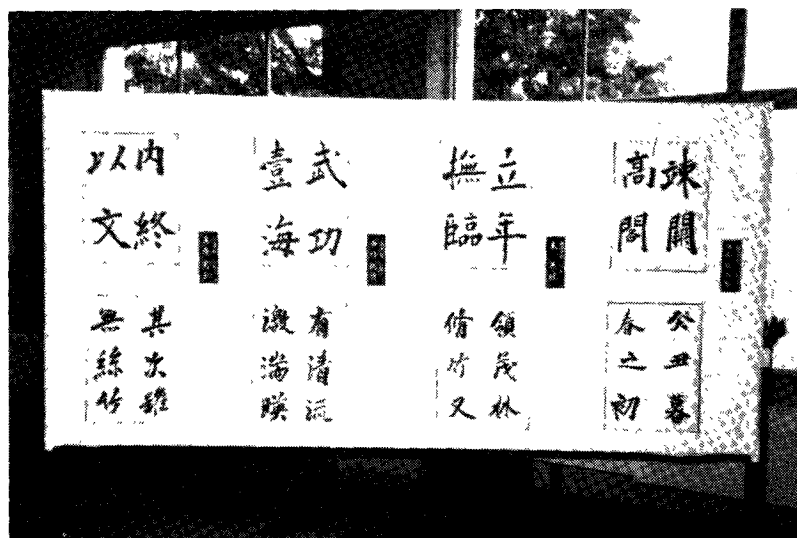
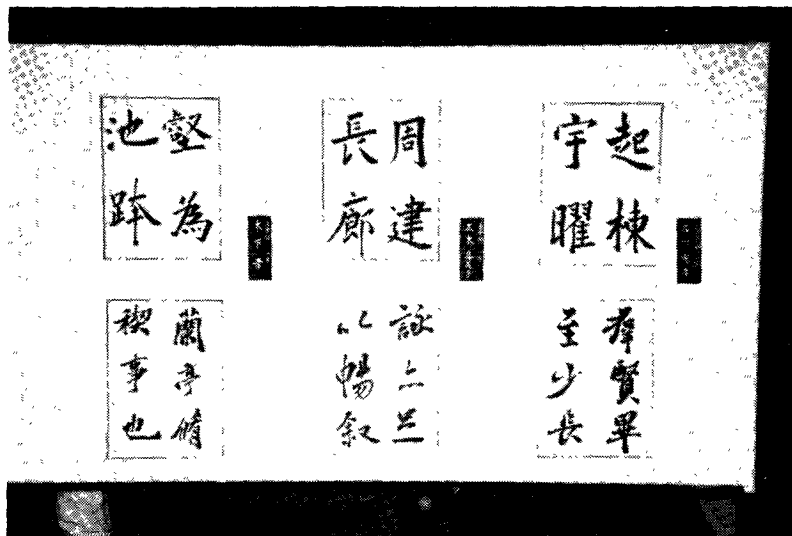


書心会会長 柴田 一夫

学内展作品







序

福岡大学学術文化部会書道部機関誌十二号「書心」、二十五号「荒鷲」が発刊できます事は、部員一同、誠に慶びにたえません。

我部も今年で二十四年目を迎え、諸先輩方の努力により、すばらしい伝統を数多く残され、年を経るごとに素晴らしいサークルに成ってまいりました。

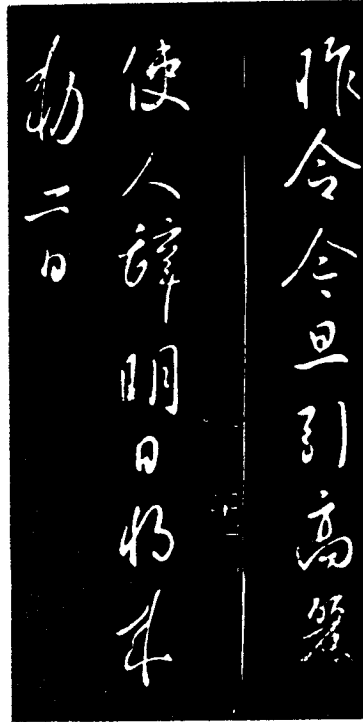
現在、書道部には、数多くの問題が残されておりますが、この機関誌の発刊を通じ、諸先輩方に負けぬよう部員一丸となって前進していきたいと思えます。

第二十四代幹事 藤代裕之

「貞観の治」として称えられる太平の世を現出せしめた英明の天子・唐の太宗（李世民）は、数百巻に上る王羲之の書蹟を広く集めるかたわら虞世南・欧阳詢に楷法を教えさせた。科挙制が行なわれ経書の解釈や文学の試験によって官吏を登用したこととあいまって、初唐には楷書の名家が輩出し、中国書法史上の黄金時代を築き上げたのである。

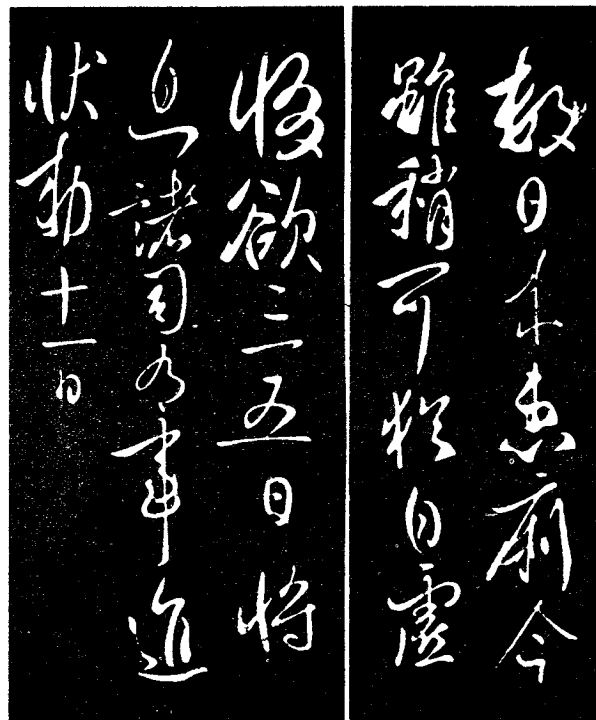
太宗がいかに王羲之の書を熱愛したかは彼が苦心して得た「蘭亭叙」をその墓である昭陵に殉葬させたことから知られるが、今日に伝わる「温泉銘」や「屏風書」などにも、自ら王羲之風の書をよくしたことを窺うことができる。

また、『淳化閣帖』には太宗直筆の書信が刻入せられていて、我々は唐初の皇帝のやや私的な口吻に居ながらにして接することもできるのである。



今朝（二日）高麗からの使者に謁見しようとしたが、その使者はことわってきた。明日は必ず埋れて来なさい というのである。

貞観十九年（六四五）二月に太宗は高麗に親征して翌二十年三月に帰国した。その五月に高麗は使者を派遣して非礼を謝罪し、美女二人を献上した。この帖はその時のものであるろう。これか皇帝としての威厳をいささか感ぜしめるものであるとすれば、次の帖は一人の人間として苦しみを訴えた書信であるといえる。



「数日来患痢、今／＼雖稍可、猶自虚憊／＼、欲三五日將／＼息、諸司有事進／＼状、勅、十一日」

数日来 痢を患う。今は稍や可なりと雖も、猶自ら虚憊る。三五日は將に息まんと欲す。諸司に事有らば、状を進めよ。勅す。十一日。

このところ下痢をわずらっている。今は少しよいがまだ疲れて元気がでない。あと数日は休息したい。諸々の役所に事があれば書信で伝えよ。というのである。

今を溯ること一千三百年の唐代の初め、天下（当時の認識では全世界）に君臨した万能の天子・太宗が何日も下痢に苦しんで、朝政に臨めない状態を訴えているのである。受取人は時の宰相であろうか。

この書信はその後二五十年を経て宋の朝廷の図書館に収められ、宋の太宗（趙匡胤）がこれを石板に翻刻して複製を作った。書法の指南役王著に命じて作らせた『淳化閣帖』全十巻がそれで、上の二つの書信はその巻一「歷代帝王法帖」に刻入されている。

この法帖のおかげで我々は唐の太宗の身体の苦しみを眼前のもののように見ることが出来る。身体が弱っているとはいえ、政治に対する情熱はいささかも衰えることなく、筆勢も誠に力強く、英明の帝王らしい雄大さがあふれている。

七月十九日（一九八四年）

三十六年度卒書心会会長 柴田 一夫

部創立24年、また荒鷲創立25回の永き年月をささむ年になりましたが、わたくしとしては感無量を禁じえません。

同好会創立から部昇格時のことや、家族、少人数の部員だったこと、第一回の西日本高等学校揮毫大会といろいろな事が思い出されますが、不思議なことに苦しかった事等は何も思い出せず楽しかった事のみばかりが脳裏にこびりついています。どうしてでしょうか。

今考えてみれば同好会及び部創立時に一緒に苦労して頂いた諸氏の御協力のおかげがあったからだと確信致します。

改めて御礼を申し上げます。

その当時の事は全てが今とは比較にならない諸条件、諸環境の中でよく運営出来たものと思われまふ。

書道部の卒業生で構成している書心会も書道部の歴史と共に増え現在では168名もの大世帯となっています。

書心会は相互の親睦は勿論、書道部の良き相談相手として活躍していますが、現代の書心会員は各方面にて着実に足跡を残しつつあります。

卒業後も書家の道を歩んでいる人、書道とは関係ない職業についている人でも社会に於いて立派に活躍され強さを感じると共に今後の発展が大いに期待されています。

書道部と書心会は一心同体であり、今後共書道部の発展と書心会員のますますの御活躍を祈ります。

「現代社会の中で」

学術文化部会第二十七代常任幹事会幹事長 松島 茂雄

私共、学術文化部会に位置する書道部が、書道部OBの方々と現部員との合同機関誌であります「書心荒鷲」を発刊なされますことは、私共、学術文化部会々員にとりまして大いに慶ばしいことであります。又、執行していく身にあります私にとりまして、この約四分の一世紀という歴史と伝統の重みを痛感すると共に、これまで築かれてこられた先輩諸兄の努力と情熱に厚く感謝する次第であります。

さて、現代は情報化社会とさえ言われる程様々な情報が私達の身の回りには氾濫しており、社会はニューメディアで明けニューメディアで暮れるといった状態です。確かに、科学が発達するということは私達にとっても大へん便利になるということを意味するでしょう。しかしながら、「便利になる」ということは裏を返せば、一種の危険性を含んでいるものと考えなくてはなりません。それは、この様に情報が氾濫する社会に於いて、ともすれば自分を見失いがちになるということであります。つまり、何が正しいのか、何を今すべきなのかという判断基準が困難になる訳ですから、当然、そこに存在する私達は、速いスピードで流動している社会に巻き込まれ、ただ流されるままに過ぎてしまうという結果にもなりかねないということです。

そのような社会情勢の中で、自己の確立、人間形成を目的としたサークル活動というものの存在価値は大へん大きなものとなってきているように思われます。ましてや、書道という「静」なる世界の中で、自分の

個性を発揮し自己を表現していくということは、現代社会における「自分を見失わない」という一つの原則と一致しているものと思われまふ。最後に、現代社会に於けるサークル活動の在り方を私共学術文化部会会員それぞれが考え、また、書道部に於かれましては、この「書心」「荒鷲」が今後ともより一層の充実と発展をするように更なる邁進を切に期待して結びとさせて頂きます。





懐かしさの中から

三十七年度卒 原 通 幸

近代的建築が列をなす、現在の大学の姿、数倍にもなる学生数、これが母校かと、目を疑う程の状態の中で、やはり昔から存在する一部の建物の前で立ち止まり、二十数年前に、一瞬、包まれる心境、これは一体何を意味するのであろう。懐かしいだけの、唯それだけでない、自分にも理解出来ないが、しかしこの満足感は何んであろうか。

学生時代を如何に過すか、これは人生にとって、大きな糧となる事を、五年、十年、二十年と、時の経過の中で、その重さを感じずにはいられない。

二十数年、脈々と続く書道部と、人、そして活動。その出発点とも云うべき時代を過した私達の時代。荒鷲や書酔の機関誌を拝読する中で、活動を推察し、嬉しく思う。

老人（二十数年前の先輩ともなれば）のたわ言と思ひ、二、三、現役諸君に語りかけます。

「友人は何人いますか」

書道部で得た友は何人いますか。同輩、そして先輩、後輩。何時の間にか、一生の友となり、家族同志の交際となり、心の寄りどころとなる友。一生の中で一、二名いれば幸福者である。とよく云われるものです。最近、先輩、後輩のつながりが薄く、同輩でも、まとまりがなかった、

と話しを聞くことがあり、悲しい気持ちになります。人生の中で最も大切に、素晴らしいものを得ない事程、淋しいものはないのです。

「部活動とは、一体何んだと思いますか」

好きな事を、好きな時に、好きな処で、好きな人と。好きな事を、この点以外は、ほとんど拘束される活動。一年から四年、各代ごとに、与えられた考えと行為。年間の諸活動、行事の消化。何んと忙しい事である。その上、人間関係の難しさ。自分以外の事で悩むことの多きこと。やりたくない事をしなければならぬ。自分という人間を、抑えなければならぬ苦しさ。

考えてみれば、「好きな事」という一点を除けば、何んと苦しい事の多き部活動。

しかし、機関誌等で四年の先輩が、話す言葉は、晴々しく、満足げなのは何故であろうか。真剣であればある程、後輩に語りかける言葉の温かさは、何んであろうか。そして後輩に自分の足跡を、再び歩かせようとする、意味は、何か。意味深いものです。

「書道、真の書道とは、何んと思えますか」

部展、連盟展等、拝見すると、その内容とスケールの大きさに圧倒される思いです。

県展等の入選、入賞も数多く、書の道へ進む人も生まれ、唯々、感心するのみです。これは学生諸君の努力もさることながら、先生の御努力の賜と感謝する次第です。

しかし、私達が、二十数年前、書技の面では、比較にならない程の低レベルの時代／＼「真の書道とは何か」「私達が学んでいる書道は、どんなものか」。考え、語たり、夜明けをむかえた日々は、何を意味するか。

現在の書道界の中堅といわれる、当時の関東、関西の学生と討論し、彼等を逆に悩ます程に与えたものは何んであったか。時には、部創設の主旨の文章をかみしめて欲しいものです。学生書道とは何かを考え、語り合つて下さい。

芸術の世界であるだけに、真実を求める姿の貴さを失わないで欲しいものです。

建物の変化は、とめどなく。時代の流れは人をも変えるものかもしれません。しかし、書道部という、名と場の中で生活をした者の一人として、現役の諸君に、意義ある学生生活であらんことを祈る次第です。

もう一つの世界

四十三年度卒 徳久 政機

私には呉服屋として、又もう一つ、書道の世界があります。「きもの」のお話も随分楽しいのですが、書道のお話となりますと、仕事を離れたお話として一段と興味がわいてまいります。いつも腰に筆と墨をぶらさげて暇さえあれば字を書く様な生活も曲折はあっても、随分永い事やっている様です。でも、でも、ただそうだったからやっていた様なもので、とりたててどうこういう事ではありません。ただどうすれば楽しくなるか、それだけは、考えていた様な気がします。苦しい事はいやだから、出来るだけ楽しくなる様に考えてまいりました。そうした肩をはらない事がこれまで続いて来た事の様に思えます。

それにつれて、多くの門をたたき、して多くの友を得ました。それも

そうすれば楽しくなるだろうと思つたからです。幸せな事に今では私にとつて、なくてはならない世界になつてしまいました。かといつても、楽しさにつれ、何事も苦勞はつきものの様です。楽しみを維持する為の苦勞がのこつていました。でもその様な事おかまひなしです。何事も深く考えたつてきりがありません。凡人は凡人としての及ぶ範囲でものを考えれば良いのかも知れません。無理をせずに、己を信じ納得のいく事と一緒に歩いていけばよい様です。この様に考えだしたのも最近なので、四十真近にして色々考えております。

この様に申したのも、後輩諸君、特に新入生諸君、書道部には良きにつけ悪しきにつけもう伝統といつた様なものがあります。私達が育つて来た若かりしクラブとは違つたものになつて居る様です。でも伝統を守ろうなんて堅い考えはやめて大いに青春を謳歌して楽しんで下さい。せつかく入部した、楽しいクラブです。楽しくするもしないも要はあなたにしたいです。新しい可能性を求めて、大いに活動してみませんか、必ず何かが生まれるはずで、あなたの中のもう一つの世界、切り開いてみませんか。ゆとりをもつて、あせらずにスタートして下さい。情熱と愛情を大いに注いで下さい他人にはなく、まず御自分に。

「インドの猪口」

四十四年度卒 前崎 恒春

私の大きな楽しみの一つに工芸品の蒐集がある。人の手になるものであれば、洋の東西、古今を問わず何でも集めて居る。ただ上手のものは

好きになれるものが少なく、集まつたものを見ると民族の生活ぶりが見える下手の品が多い。それに値の張るものは、我が家の生活に影響をおよぼすので出来るだけ手を出さないようにしているが、どうしても欲しいものがあれば、少々無理しても、ついつい買つてしまう。そんな時、家の者には安い値段をいうのだが、そのうちにバレてしまつて冷ややかな視線をいやというほどあげられることとなる。この蒐集が私の仕事の大切な慈養源であることを、事に際して色々説明するのだが、敵もさるものなかなか納得しようとしない。あるいは納得はしていても、気を許すと際限なく買つてくることを恐れているのかもしれない。

以前、インドを旅したことがある。十日間の団体旅行だったので、ほんの少し香りをかいで来たというほどのもので、殊更に語ることもないのだが、日本のように整理された国から見ると、インドの猥雑で渾沌とした有様は、得体の知れないしたかさを秘め大いに魅力的であった。そんなインドで、なるほどインドらしいといえる面白いものを見つけて来たので紹介してみた。

それは、どうつて事な素焼の猪口で、あちこちの道端にころがっていたのを、姿が気に入つたので一つ拾つて来たのである。人通りの多いところには、その猪口が山と積まれており、傍らでは水売りがいて、それに水を注いで売っていた。

日本に帰つてから猪口を陶芸家の山本源太さんに見せると、これだけ轆轤のひける者は今の日本には、一人か二人しかいないだろうということだった。「へえ」と驚いたのだが、よくよく考えてみると、それは実に当り前のことで、安い水を売るための、しかも一度だけ使つて捨ててしまふものを、手で作るような馬鹿なことは、今の日本では到底考えら

れない。それが有得るインドという国、やはり不思議な国である。

そんな貧しい大地の片隈で今も黙々と轆轤を回し続けている轆轤引きに、どんな喜びが与えられているのであろうか。ただ同然の水呑み猪口を作つて一日の糧を得るのである。一日中、汗を流して作つても家族のものを満足に養えぬのではなからうか。地位も名譽も何もない。そんなことを考えることすら許されていない。貧しい轆轤引きである。まして美しいものを作ろうなどは夢想だに出来ないちっぽけな存在なのである。

猪口を見る度に、私は金剛經の中にある応無所住而生其心という句を思い起す。応に住するところ無くして其の心生ずと読み下すのであるが、これは、誉められようとか、上手に美しく作ろうという気持をどこかに忘れた時に、人は生き生きと輝き出す、という意味あひを持つ句なのである。世間的には何ら価値の与えられてない水呑み猪口に、今、そのままで後光がさす摩 不可思議な世界は、決して他人事ではなからう。生あるすべてのものに陽はさしているのである。しかし、我々はあまりに多くを望み、満足することを知らないために、つまらぬ自分の影ばかりを見てしまうのであろう。この猪口の作り手は決して貧しい身の上を悲感等してはいないと思う。大地をしっかりと踏みしめて、おおしく今日も生きていくことであらう。

町なかの川のほとりのくずれかけた土造りの小屋から、飛び出して群がって来た子供達の、人なつこい可愛い瞳のように、素焼の猪口も生き生きと輝やいている。

インドで拾つた猪口が一つ 太古の土音を伝える

帰国後、猪口を眺めているうちに思いついた言葉を締めくくりに筆を

置くことにする。

・穂高縦走記

五十二年度卒 永野 雄 二

大学を卒業して六年目の昨年九月、気分を一新する意味で、北アルプスに夢をはせ五カ月の準備を終え実現に及んだ。

「槍ヶ岳」、象徴的な山容、日本の近代登山の発祥の地という歴史、そして現在の人気を合わせてみるとまさに北アルプスの盟主であり、鋭角に天を突くあの穂先を目の前にすると、なんとしても頂に立ちたいと岳人の誰もが願うところである。三十キロ余りの所帯道具を詰め込んだリュックを背負い、横尾から八時間を費やして槍ヶ岳に到着。三千百八十メートルの頂き立った。槍の肩で一夜を過ごしテントをたたみ霧深い中を北穂高岳へと向つた。途中にスッパリと切れ落ちていく岩陵地大キレットがある。他のルートで甘くみていた落石も、ここでは命取りだ。岩を這い鎖につかまりながらどれ程行つただらうか。突然風雨が強くなつた。どうやら雷雲の中に入ってしまったらしい。へたに身を動かすと突風にあおられ谷底へ、おまけに雷の直撃を受けても全く不思議でない場所である。雨と風で体温が奪われ寒くて体の震えがとまらない。一時間も経つたらうか。雷鳴が少し遠のいたので五十メートル程先に進み、やつと岩かげに身を置くことが出来たので、十分位休息を取つた。雷鳴が遠ざかったと思うと急に目の前の霧が晴れ、その霧間に絶壁が立ち塞がって私達の行く手をさえぎっている。大キレットの中でも最難所と呼ば

れる飛弾泣きだ。再び霧の中にかくれた。今はまだその怪物に挑むことは出来ない。やがて雲が上へ上へと登りはじめその全容をみせてくれた。山の天気は変わりやすいので、先を急ぐ。やがて北穂高小屋が見えてきた。まだまだ先に奥穂高への縦走を残しているが、今回の山行きは、この大キレット通過で終わったような気がする。

時間にすれば数時間であつたろうが、いろんな思いが脳裏をかすめた。私の人生において意義ある数時間であつた。決して安くはない費用を使い、人にとっては時間の浪費かもしれないが、銭金にかえられないものを得た。

大学時代のサークル活動も何物にもかえ難い多くの事を掴みとる筈です。又、これでよいのだろうかと思ひことも多いでしょう。それでもいいじゃないですか。そういう時は、近くの山にでも登つて下界を眺めてみたら何らかの解決の糸口がみつかるかもしれませんよ。

書道部の財産は非課税です。

五十七年度卒 城戸 信比古

書道部にはたくさんさんの財産があります。書道に必要な法帳や書籍はもちろん、荒鷲のように書道部創立以来の活動を今に伝えるもの、また裏打・表装をする為の道具、あるいは卒業記念として贈られたもの等、様々なものがあります。

いくら良い筆・紙・墨があつても、ただながめているだけでは何にもなりません。書道部なら書いて当り前、練習して腕を鍛えてこそその価

値が見い出せるものです。同様に書道部の多くの財産も充分に利用してこそ価値があり、さらにその管理の仕方しだいで光もすれば、色あせもします。例えばツンツルテンになった裏打ち用のハケがきれいに洗つて干してあつたり、破れてしまった法帳が修理されて整然と並べられている様は、一層光を増してすばらしいものに見えるでしょう。これらの他にお金では買うことのできないものとして、赤木先生に書いて頂いた手本があります。僅ばかりの講師料で、落款が入れば何万もしそうな手本をいったい何枚書いてもらったでしょうか。これと同種のもは他のサークルにはどこにもない。書道部が誇るべき財産です。それだけに先生の手本は、大いに利用し大切に取り扱い管理しなければならないと言えます。

抽象的になりますが、学文会その他のサークルも、福書連加盟の他大学の書道部もまた財産となりうるものです。そんな中で一番身近なものとして書心会があります。私達、卒業生は書心会を大いに活用してもらえよう努力しなければなりません。現役の諸君は遠慮なく書心会を利用して下さい。

一番いいとき??

五十七年度卒 児玉 富美
卒業して一年とちょっとになります。

会社で仕事をしていて、また人と話をしていてふと大学時代に思いをはせることがあります。あれ?確かこんなことを大学の時にしたことが

あるなあとか、考えた覚えがあるといったように自分でも知らず知らずのうちに思ってしまったのです。過去の経験と現在を照らし合わせることは誰もがすることですが私の場合、やたらに大学時代、しかも書道部での経験が多く出てきます。

大学時代というのは人生の中でも特別な時期のように思います。社会的にも精神的にも中途半端と言うか宙ぶらりんの状態にあるのではないのでしょうか。そんな中で四年間は私にとっても強烈な印象として記憶の中に存在しています。

在学中に多くの先輩方や先生から我々がクラブをはじめとするサークル活動は、社会に出てもきつと役立つと言われてきましたし私もそう思ってやってきました。そして社会に出た今、その言葉の意味を実践で味わい始めた訳なのですが、予想していたものとはずいぶん違っていることに気づきます。

つまり、当然の事ながら大学と社会は違うということです。大学時代に経験したことは社会のまねごとにすぎないのです。社会に巣立つ前の予習段階というところでしょうか。でもそのまねごとが多ければ多いほど社会でも、学生時代でも、おいしい味になると思います。

今、現役で活躍されている皆さんも、日々何かを思い、悩みながら楽しい時期をすごしている事でしょう。好きなことはもちろん、少々やっかいな事や無駄に思える事にもたくさんトライしてみたいかがでしょうか。その結果は卒業してからのお楽しみにしておくことにして……。最後に大切な四年間を提供して下さった御両親に感謝して、これからも元気で活躍される事を祈っています。

学校印刷のスペシャリスト →

とうかしょぼう
權歌書房

第10回 福海祭
西日本短期大学 法学科

第4回 定期演奏会



權歌(とうか) ちょっとむずかしい名前ですが、どうぞよろしく

×

權は舟をこぐ道具の權(かい)という字です。權の字の中、佳はしっぽの長い鳥という意味です。舟をこぐしっぽの長い鳥とみたとて、權という字を当てたものでしょう。

ちなみに櫂(ろ)というのも同じ舟をこぐものです。櫂は舟に支点をもうけてこぐもの。權は支点をつけないでこぐものです。權は舟のどの場所でもこける利点はありますが、効率はよくありません。

舟の発達史からみれば、棹→權→櫂と進歩してきたと考えられます。英語では 棹 = pole, 權 = padde, 櫂 = oar となります。

權歌とはふなうたのこと。三国詩に權歌行という詩があります。

○ポスター・パンフ・チケット・
バザー券・部誌・新聞・ミニコ
ミ誌・チラシ・学生手帖・アル
バム

〒 814 福岡市城南区友泉亭1番36号
-01
電話 (092) 713-9815

福大生の
いこいの広場

ボウリング
ゴルフセンター
レストラン
ビリヤード
卓球
コピー
オートテニス
健康食品

バッティングセンター
ゲームコーナー
音楽喫茶(もみの木)
雪印スノーピア
北洋ベーカリー
月極駐車場
婦人文化サークル

七隈ファミリープラザ

〒814-01 福岡市城南区七隈8丁目4番8号 ☎ 092(861)5555

おふくろの味 お持ち帰り寿し・弁当・丼物

花すし弁当

コーセストア隣り

TEL 864-5348

味自慢 卸かまぼこ 造って売る店

上田蒲鉾店

福岡市中央区六本松 電話(741)7109

国産 中国産 総合書道用品 天神貸画廊オープン
卸 商

書苑

硯山

〒810 福岡市中央区天神三丁目5-23

TEL 092(721)1644 営業所 下関・東京・新橋

コーヒーハウス

北 欧

福大バス停前

TEL 871-6232

合宿にクラブ活動に電話一本で

貸ふとんの丸屋

福岡本店 092-712-5511
北九州営業所 093-661-5541
東営業所 092-622-2190

額・表装一式

菊池晚香堂

〒810 福岡市中央区六本松3丁目12-24
TEL (092) 741-0897

味自慢 御かまぼこ

上田蒲鉾店

福岡市中央区六本松 電話 (741) 7109

自転車・バイクの御用命は

篠原自転車商会

福岡市城南区荒江1丁目28番21号 TEL (821) 0551

八女茶

結納茶の店

わかば園

福岡市早良区飯倉7丁目28-5 TEL (861) 6365

拝啓

今、思うこと

人文学部 一年 石川 憲喜

人文学部 一年 真角 寛子

拝啓 元気で暮らしていらっしやることと思います。こちらは、長いこと居座った風邪もどうやら去りましたので、御心配なさらぬように。

ところで、僕は、下宿の傾いた畳の上でごろごろしているよりも思いまして、この度、部活動に参加いたしました。何部に入ったと思われ

ますでしょうか、なんと、書道部なのです。そうあの墨と筆を使った白墨のあれです。「なんと」とは大げさかもしれませんが、この僕

からは思いもつかなかった、部名だと思えます。自分でも思いもつきませんでした。入部は、たまたまでした。「ちょっと部室にこいや」と言

われ、ちょっと部室に入ったところ、完全に雰囲気は飲まれ、新入生の列に名札が掛りました。入部して数週間、まだ辞める気が少しも出ない

ところを見ると相当長続きが期待できるように思います。先輩方は、皆人間味のある方々ばかりで、だいぶ、迷惑をかけていると思うのですが、

笑って許して下さいます。一年生も楽しい人間ばかりで、おまけに名前も楽しいということで、本当に居ごちがいいのです。もちろん、書道

は下手です。でも今度は、みなさんの読めないような、素晴らしい字を見せてあげたいと思います。待っていて下さい。

最後に、乱文をおわびいたします。文章にも計画性の無さが出てしまいました。それでは、お体に気をつけて、失礼致します。

敬具

先日、家の裏山で「竹の子」を堀った。今まで裏山には入ったことがない。初めて入って驚いたことには、「竹の子」が鋭く天に向って延びているということである。どっしりと地に根を張る「竹の子」には、何か鋭い生命力があるように思えた。

私は、地上に少し頭を出した「竹の子」を堀った。地中はその何倍もの長さで予想していなかった太さのものであった。父は、

「こんな竹の子なら立派な竹になる」と言った。私は取ってしまうのがおもしろいと思った。

竹には節がある。私も入学、卒業と私なりにいろいろな節を経てきた。大学に入學した時から、学生として、書道部の一員として、又、社会

人としての自分がある。私は竹のように日々延びていきたい。自分から名のりを上げて入部した以上絶対やり通さねばと思っている。

大学入学前の一か月余り、市川米庵の書と取り組んでみた。最後まで思うようには書けなかった。四年後にもう一度挑戦してみようと思っ

ている。
とうば せきへきのづ
東 坡 赤 壁 函

孤舟月上水雲長し、崖樹秋寒古戦場
し古戦場

一 自風流属坡老 功名不復書周郎
三二二一

一 たび風流の坡老に属してより、
功名復た周郎を書かず。

「現在（いま）」

入学して思うこと

商学部 四年 大場 満恵

経済学部 一年 本 英朋

月日が立つのは早いものです。私も二十一歳を過ぎてしまいました。この頃になると、私たちはよく、「あの時は、良かった」と、過去を懐しむものです。

一方、これから社会へ旅立つ私たちにとって、未来への夢を、ああしたい、こうしたいと夢想するのは当然のことです。

しかしそのくせ、時間の大切さを忘れがちな私たちは、まさに一期一会と言うしかない「現在」に対しては、わりと雑に過ごしているのではないのでしょうか。過去や未来にかけける思いの半分も、現在に配分していないように思えます。

現在の積み重ねが、やがて未来になり、振り返った時の過去になります。です。

人間は、いつ死を向かえるかわかりません。もしかすると明日かもしれない。結局、人間にとって確かなものは、現在しかないのかもしれない。もっと現在にひたむきでありたい。ひたすらでありたい。他でもない、自分の現在なのだから。

大学生活も残すところあとわずか、大学生活は、現在しか送れないのです。現在の重大さをつくづく感じました。

高校時代、たくさん勉強しなかったおかげで、三年になってかなり焦ってしまった。国立大学もあきらめねばならなくなった。数学優先の信州大学を狙おうと思ったけれど、その前に宮崎から近い福岡大学に合格したのでやめることにした。しかし今は、福岡大学に来てよかったと思っている。

書道部へ入って、あの練習中の真剣さには「オーッ！」とたまげてしまった。反対に、この調子ではかなり上達できるだろうと思った。

現在は指定寮に入っていて、おかげで調子にのせられて寮友会などというものに入ってしまった。

と、突然賞状書きを頼まれた（こんちくしょい、よだきと）。ところが、書いてみると結好い練習になった。：が、十数枚書いたらぼつぼつあきがききたのだ。（情けない！）

それにしても赤木石掃先生の筆さばきには魅せられてしまった。思わず「名人」という言葉よりも、「化けもん」という言葉の方が先に出てきた。

今でも、先生のあの指先不動の書き方は不思議でたまりません。

時の流れに

経済学部 二年 瓜生 達哉

「あっと」、気が付くとすでに二十歳にもなっているではないか。

「月は人を待たず」の言葉通り、最近の時間の経過の速いこと速いこと、中型に振り切られた原付のように追いついたと思うとすぐに引き離されていってしまうのだ。

そのせいか今、非常に焦っている。情報化社会の下、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等まさにこの世は情報の洪水である。

この膨大かつ多種多様の情報の中でアップアップ溺れているのが現状なのである。それを少しでも打破するためにも、今自分がほしい自分が求めている情報を的確に選択できるような目・センスを養っていかなくてはならない。

人生はまだまだ先が長い、しかしあっという間に時は過ぎ去っていくように思う。がそんな中にも「忙中閑あり」という昔の言葉があるようにこの変化の激しく忙しい現代ゆえに心身にゆとり・余裕をもった生活を送りたいものだ。

男 友 達

商学部 一年 前田 秀樹

大学に入学して今ふと思うことは、友達のことである。確かに女友達も数知れずいたのだが、そんなに考えこむことはない。僕が思うのは、なぜか男友達のことである。ここで言うっておくが感違いをしないように、僕も女の子の方が好きである。ただ高校の時、男子校だったせい、何をする時にも男同士の方がいいなあと思ってしまう。友情を深めるにしても、ケンカをする時にしても、後でさっぱりとした感じが体をおおいつくす。誰もがやった経験だろうが、このことこそ最も大切な事だと思っている。

高校に行く時に分れた仲間、大学に行く時に分れた仲間、思い出してみると、仲が良かった奴悪かった奴にかかわらず、はっきりとうかんでくる。僕一人だと小さく見える時も仲間がいると大きく見える。

今の僕があるのは、こいつらのおかげと喋っていいだろう。
今から夏休みが楽しみである。分れた友達に会えることが、そしてうまい酒が飲めることが・・・。

「てる」のこと

暗中模索

人文学部 一年 大谷 薫

法学部 二年 田中英樹

「てる」というのは、高校のバレー部の先輩がつけてくれたあだ名です。ものすごく気に入っています。これからも多くの人に「てる」と呼ばれたいと思っています。そこで、自己紹介をしようと思います。

何が好きかという点、多勢でワイワイすること。私はあまりしゃべることほうまくないし、内気な方なので、（うそと思うかも知れませんが事実です。）自分から話し出すことは少ないと思います。だからかわかりませんが、手紙を書くのが好きです。書き始めると必ず、便箋4枚は書いてしまいます。そういう反面、スポーツが大好きで、観戦するのも、スポーツするのも好きです。一応、中学、高校とバレーボールをしていたので、少しはわかります。スポーツしたあとの汗と疲労と水が好きです。そういう私が、大学に来て入学したのが、書道部。自分でもびっくりです。でも、実際、やりがいがあるし、今は何もわかりませんが、これから、先生と先輩について頑張ります。書道だけじゃなくて、他にもっと多くのことを学べるのが、サークルのいいところだと思うので、四年間、続けていこうと思います。どうか、よろしく願います。

皆さんは、無意自然という言葉を御存じであろうか。この言葉は言うまでもなく、中国の古典思想の中の一つである老荘思想の言葉であるが言葉の意味として、つまらない術策をもちいないで物を自然にまかせるといふ意味であるが、現在の社会を例を揚げて考えてみると、出世の爲にはどんなことでもするといふような考えを批判するものである。確かに自然に事をはこべたらどんなにいいものである。確かに理想ではあるが今の社会には全部とは言わないがあてはまらない部分が多いと思う。

又ルネッサンス期のマキャベリ。彼の書いた「君主論」によると、君主権は絶体的なものであり国家の維持・発展のためには、欺・賄賂・暗殺などの手段に訴えてもよいといふものであるが現代社会の中ではゆるされない事ばかりではあるが、全部が全部否定できるかと言えばそうではない。いやむしろ本当に必要な事かも知れない。

例を二つ挙げたが、どちらの場合でも感銘する所とそうではない部分がある。二つの例だけではなく全部の場合でも言えると思う。結局どういふ考えが自分にとってすべてといふものはない。いろんな考えを吸収して幅の広い人間になつていこうと思う。自分にとって「すべて」は、自分で創り出していくものだから。

「雑記」

わが青春の書道

商学部 二年 山本 順一

経済学部 一年 白糸 林太郎

梅雨の間は、人の心まで抑圧してしまふような黒雲が、山の中腹までたれこめていたが、季節が夏へと移った今では、気持ちよい水色の空の中を、しかし、そのようなまわりの変化にも、山は全く無頓着で、「雲去来すれども山動かず」である。

こんな山のような人間になりたいと常日頃から思っている。が、はたして今の自分とは考えてみると・・・週に出席する講義といえは2・3の必修くらい。試験前になると部員の講義表と めっこしながらコピー・コピーの大騒動。アパートには、足の踏み場もないような部屋の片隅に敷いてある万年床に夜遅く帰ってただ横になるだけ。朝食と昼食の区別はなく一日ラーメン一杯の生活もざらの事。部屋にあるのは零倉庫であり、その他多くの家庭電気製品もただの飾り物と化している。勿論こういう生活ばかり送っている訳ではないが、今、自分の頭の中にあるのはクラブ、クラブ、クラブである。

はて、こんな大学生活で本当にいいのだろうかと思ふ。ただ一つ言える事は、今逃げ出した所で、今以上に充実していたなと思える時間は過ごせないであろうという事である。理由はともあれ自分で選んだ道である。今を全力でぶつかっていききたいと思う。人の為にやっていると思つてはダメである。何事も人生勉強。そして十年後、あるいは二十年後、あるいは三十年後ぐらいに、油山ぐらいにでもなればよいと思う今日此頃である。

青い空、白い雲、赤い夕陽そして黒い墨、これがぼくの大学生生活のすべてです。ぼくは、小学校いや生まれた時からまじめ人間の白糸君とよばれてきました。だから麻雀、パチンコ、酒、タバコはもちろんのことマンガさえ読みません。読む本といえば聖書と六法とちよつとくだけてアインシュタインの相対性理論の本ぐらいなものです。こんなまじめなぼくだから福大に来て1年の未青年の人達がタバコを吸ったり酒をのんだりしているのを見てびっくりしました。あんなものどがおおいしんだらうと思います。それから麻雀をする人が多いのにもおどろかされました。ぼくは麻雀が大嫌いです。あのジャラジャラという音をきくだけで頭が痛くなります。あんなものおもしろいはずがありません。みんなほくに麻雀をおぼえろと言いますがぼくは、夜は9時にねて朝は6時におきるというまじめな生活をしているのでそんなヒマはありません。もちろん講義にはまじめに1つもさぼらずに出ます。ああこんな、人達の中でぼくは、本当に大学生生活の意義というものを見つけることができるのであろうか、いやきつと見つけることができる。なぜならぼくは、まじめだからだ。

我が下宿 学修寮

法学部 二年 照本 英治

自分が学修寮に入ってから、早くも一年と二ヶ月が過ぎようとしている。自分が学修寮に入ったのも偶然なら、坪矢さん、大西さん等の先輩方やかなり奇異なる同輩達に出会ったのもまた、偶然である。それにしても、学修寮は、はたで言う程、良い下宿ではない。飯は、まずいし、部屋も狭い。それでも、自分が出る気にならなかったのは、勿論、先輩達がいい人ばかりである事もあるが、それよりもまして、楽しく、すばらしいやつらである同輩達がいるからである。正直に言って、学修寮にいと、心が落ち着き、気が安まるのである。とにかく、同輩同士で話しをしたり、酒飲んだり、麻雀したり、じゃれあったり？ していると学校で嫌な事があっても吹き飛んでしまう。そして、自分を出し切れて付き合っていけるのである。おまけに、その同輩は、自分のいる階だけでなし、上の階にもいるのである。とにかく、人との付き合いに関しては、学修寮は最高であり、自分は、ここで四年間を過ごそうと思っっている。まあ、この学修寮は、法学部は、四年間で卒業できないという、ジレンマもあるが、それは、自分で勉強すればいいのだからして。自分は、この学修寮で、ナイスの先輩、同輩、そして後輩を作るぞい！！

最後に、自分は、坪矢さんのおかげで書道部に入ったが、一年の間、部において、何も掴んでないように思う。でも、あと三年弱の間しかないが、必ず何かを掴んで卒業してやるぞ。そして、書道部と学修寮で、多くの人間と知り合いになるぞ。みんな、ヨロシク頼みますよ！！

青春のヴィジョン

法学部 一年 臼井 広徳

順調に行けば、あと四年で社会人となる。この街で生まれ、十六年教科書をかかえ、そして手にするものはただの紙きれ。とても空しい。とても淋しい。今までの十八年一体何を見いだしたのか。何もなかった。これからの四年間で、何か見つけることができるのか。わからない。何もかもがわからない。

中学校、高校と、とても窮屈だった。止まれと言われ、歩けと言われ、ちょっとつまずいただけで見捨てられて、それなりに抵抗した。すると不良というレッテルをはられ、いっそう白い目で見られた。肉体的にも精神的にもつらかった。

今、だいぶ心にゆとりができた。だいぶあの幼い頃の瞳の輝きもどつてきた。今こそ青春という大きな課題に体あたりする時ではないか。素直な気持ちで物事をとらえたい。

守るべきものは、何。戦う相手、誰。何のために、そして誰のために自分が生まれてきたのか、本当の夢。真実の愛。その他色々の課題を少しずつ解決して行きたい。道に迷えば、またやり直せばいい。俺十八、青春ど真ん中。

先輩へ後輩へ

法学部 二年 堀江葉子

あれから、もう一年経ってしまったんだなあ……。一年生の清々しい姿を見ると、一年前の自分が思い出される。入学したてで、恐る恐る通った部室。そしてこの一年間、色々なことがあった。その影にはいつも先輩方がいて下さったように思う。悩み事ができる度に相談にのって下さった先輩。いつも黙って見守って下さった先輩。公私の区別なく接して下さった先輩。コンバの後で御迷惑をおかけしてしまった先輩。力強くそして優しい先輩方がおられたからこそ、この一年続けてこれたのだと思う。今まで先輩方に引っ張ってもらっただけだった私にも、十二人の先輩ができた。これから先様々なことに出会うだろうが、私達と供にがんばってほしいと思う。

その為に少しでも参考になればと思い、私がこの一年間で感じた最も大切なことを書きたい。それは「自分から心を開かなければ何事もむこうから近づいて来てはくれない」ということである。「心を開く」というのは、言葉で言うより大変なことであると思う。人は自分を大切にしたいと思えば思うほど、他に対して閉鎖的になってしまう。私自身もそうであったように、自分の殻に閉じ込めることによって心を守ろうとするのである。確かにそうすることによって、多少なりとも心の平安が求められるだろう。しかし反面、生きることに対して消極的になってゆくのではないだろうか。楽しいこと素晴らしいことは、自分から求めようとするその姿勢に既に含まれているものだと思う。束の間の大学生生活、

傷つくことを恐れずに自分から行動を起こしてみよう。きっとそれらは二倍三倍の充実感となって、自分の元へ帰って来るだろう。

一回生

法学部 二年 平田聖子

福大に来て二年目にはいるが、キャンパスをちゃんと前を向いて何でも目に入るようになって歩けるようになった。

風香るこの時期には、つつじが満開で、油山もくっきり鮮やかに見える。別に初めてなわけじゃないけれども、新鮮ですがすがしいものだ。

一年生を振り返ってみると、今になってこれといっては残るものがない。ただ夢中に言われるがままにしたものだ。

サークル活動、書道、講義もそして遊びも……。

根本的には性格等は変わってないと思うが、環境の違いで対応のし方だけが変わったものと見られる。

これからも、もっと環境が変わると思うが、今までの受身の立場から自主的に積極的に対応して学習しようと思う。

戯言

法学部 二年 原 浩志

パスカルいわく「人間は考える葦である」

自分が考えるのに、最近の人々はあまりにも、物事に無感心・無感動すぎるのではないか？ 特に大学生は、社会からそのように、見られていくように思える。自己主張がなく、あたりさわりなく日々を、過しているように思えるのだが。現在の社会的風潮であるといえば、それはそうだが、自分はそのようにはなりたくない。なぜ企業が高卒者より大卒者により多くの給料を払うのか、ただ年を4つとっているためだけであろうか、いやそうでないはずである。自分達大学生は、高卒者と何か違うものを備えていなければ、ならないのではないか、それが、一言に何であるかわからないが、今、自分が、考えているのは、物事に対しすぐ受け入れるのではなく、ささいな事にも疑問をもち、批判的な精神の立場で、物事を見て行くということではないかな？……。この様に考えると現代社会は、矛盾したことばかり、こういう矛盾を自分達大学生が改めていくという使命を背負っているのではないか。こんな人間を、企業が求めているのではないか、企業が求めている人間になればいいというわけでもないが、こんな人間が人として成長し、スケールの大きな人になれるのでは……？。自分の人間に対する思いを述べたようになったが、人それぞれ考え方も違うので、自分の考えが正しいとはかきまない。わけもわからないことを書いたようだが自分では満足しています。みなさん元氣を出していっしょに頑張りましょう！

大学生活とわたし

薬学部 一年 正木 喜美子

大学に入学して、私の生活は一変しました。方向音痴の私には広すぎる構内には怖そうなおじさん（失礼）がたくさんいて、男女比1対3のほとんど女子校で育った私は真つすぐ向いて歩けません。周囲の反対と嘲笑にもめげず、2度目で受かった原付で車体と我が身を傷つけながら通ったりもしています。体育では高校になかった水泳があり、おぼれなように頑張っています。

この書道部に入部してから、何度となく「おとなしい」と形容されましたが、前に述べたように実は「トロ」くて「ニブい」ため自分が何をすべきかは言うまでもなく、周りが一体何をしているのかわかっていないのでおとなしくしているだけなのです。人よりテンポが遅いと言っても別におっとりしているわけではなく、この矛盾した性格が墨を伴い線や点となって紙の上に現れるのが少し怖い気がします。

何はともあれ書という題目で、大学生活に身を置く自分をしっかり磨きたいと思います。中味を磨けば外も光って、もう二度と中学生に間違えられないことを期待して。えへへ。

というわけで、まだまだ大学生になりきっていない私ですが、どうかよろしくご指導お願いします。

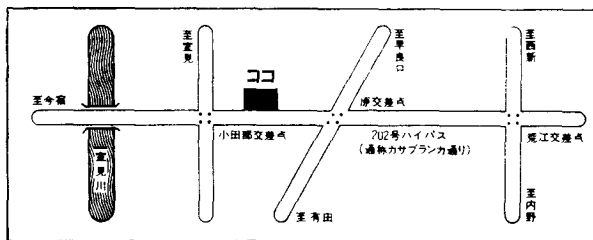
スクーターからビッグバイクまで
 万全のラインナップ
 そして万全のアフターサービス

元ヤマハ本社技術部の開発テストライダーの店、
 安全に速く走りたい方、メカの事について聞いて
 みたい方、一度遊びに来られませんか。

店内にはあの、JBL 4343 WX を中心としたオ
 ーディオから音楽が流れています。バイクファン
 はもちろん、オーディオファン、音楽ファンもお
 気軽にどうぞ。

RIDERS CLUB

カサヲカ



福岡市早良区小田部 202 バイパス沿 ☎ 822-3290

お支払い方法の案内

1. 1～36回までのクレジット
2. バイク用品はカードでの購入でもOK。
3. 親保証設定で学生さんでも購入OK。

クラブ員募集中

- ・年令、男女は問いません。
- ・但し改造車はお断り！
- ・月1回の合同ツーリング開催
- ・会則、会費は基本的にはありません。

筆・墨・硯・紙・書籍

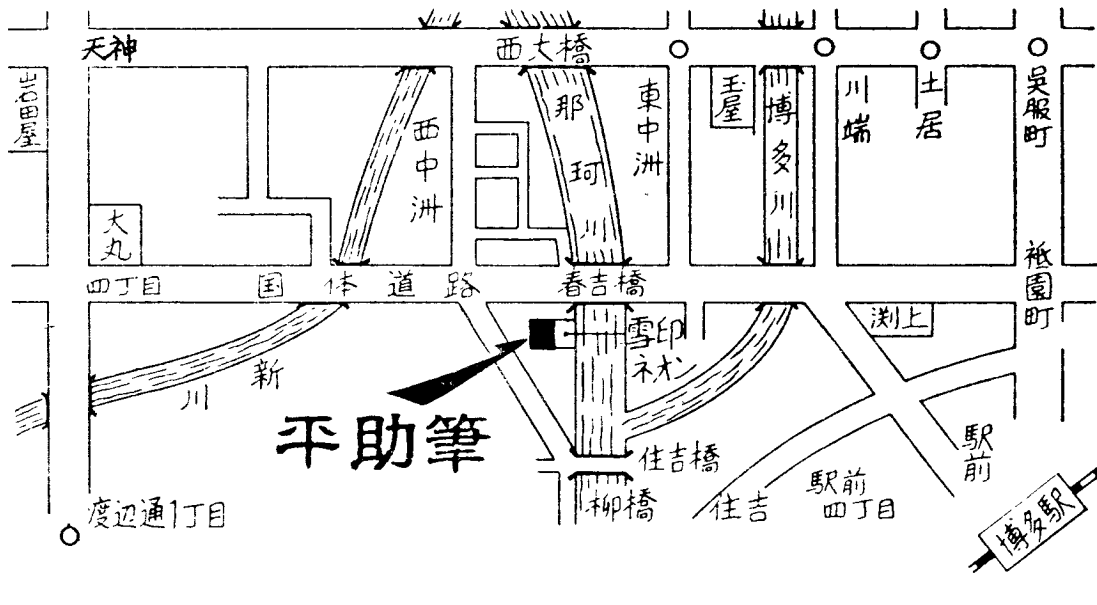
中国書道用品・展覧会の搬出、搬入

■ 駐車場有り

株式会社 平助筆復古堂

福岡市中央区春吉3丁目3街区9号

TEL(761)5122・(761)0884



大学生生活

工学部 一年 木下 晋

大学に入学して一カ月が過ぎ、大学生生活にも慣れ、書道部に入部しました。理由はというと、自分は運動は得意な方ではないということ、小さい頃から書道をやっていたということでした。しかし、やはりサークル活動によってより多くの人々と出会い、多くのことを経験し、それによって多くのことを学ぶことである。

これからは、中学・高校のように説教するものはない。本人の思うままにできる本当に自由な時である。この時に、自分はどれだけのことができるだろうか、どれだけ納得いく行動をするだろうかという期待のよな不安のようなものが起こる。

それでも今は自分の行動に責任をもつ人間になった自確をもち、くいの残らない大学生生活をおくろうと思っています。

これから、先輩方の指導のもとがんばりますのでよろしく願います。

自分と音楽

法学部 三年 藤代 裕之

自分はいつも心の中に音楽が流れている。時と場合によって様々な音楽が流れ、そして、その音楽が行動となっている。

音楽は様々な要素から成り立っている。リズムもあればメロディー、又、楽器にしてもギター・ピアノ・ドラムス・ベース……。特に自分は、リズムであるドラムス・ベースが音の基盤となってメロディーとの調和は実に何とも言えないよさがあつて好きだ。そして自ずとリズムの方に耳がいつている。低い音がしっかりしていると、曲そのものがしまつていて落ち着いて聞いていることができる。

メロディーのピアノ・ギターがよい音を出している時は必ずその基でベース・ドラムスが基盤を成している。

人の行動に於いても、自分のモットーとするものがあれば、行動に自信が出てその人の行動は、美しいものである。秘めたる炎これが第一であり、重要なものである。

だから自分はいつも自然と心の中に音楽が流れていて、そして行動をしている。クラシックにしる、ジャズ・ロック分野は様々ではあるがそれは当然であり、心が豊かになってくるようである。

書道部という選択

今言いたいこと

工学部 二年 尾崎光義

自分は今、一年間書道部に所属して二年目に突入している。

最初は、いやいやながら入ったこの部も時を経るにつれて愛着もわいて今ではやめようなどは、これっぽっちも思わない。

入って一年目は、多くの行事がありそのたびに何も考えずに先輩方の手となり足となつてこの書道部の為に動いたように思える。だが、初めての経験で何もわからない自分にはお似合い、いや、これしかなかった。そして、これからは、「甘えた事は、言わない、言えない、言わせない」で、心にゆとりをもって二年目を過ごしていく。

最後に大学での最初の後輩達へ、

この書道部に入っていて幾度か大きな波にぶちあたるだろうが、その波を確実に乗り越えて行ってくれ。

私は何度でも乗り越えて行く。

人文学部文化学科 一年 阿比留 撰

私が書道部に入ったのは自分でも不思議です。何で入ったのか自分でもよくわかりませんが、何か引きつけられるものがあつたからだと思ひます。実際に入部してみても、書道の面では厳しいところもあり、毎回練習するたびに自分の直さなければいけない点が出てきたりして、自分の未熟さをつくづく痛感させられます。最初の頃は、練習の2時間つて長いなあと思つていましたが、最近ばかりと時間が経つのが早く感じられるようになったので、少しは進歩したのだと思ひます。たくさん練習して先輩が書いているようななかつこいいのが書けるようになります。活動の面だけでなく、部の雰囲気もとってもいい部で、先輩もみんな優しくおもしろくて頼れる方ばかりで、よかつたなあと思ひます。

これからも一生懸命練習して早く上達しようと思ひますので、御指導をよろしくお願ひします。

Morning my sun

経済学部 四年 市川 初江

「ピッピッピッ」目覚まし時計が、私に「もう起きる時間だよ！」と告げる。片方だけうす目をあけてみる。朝の光が私の目にはいる。時計に目を向ける。針は8時15分を指している。「あつもう起きなくては」と思うが、目があかない。このとき、私は10数えることにしている。

(1、2、3……9、10)10でむくつと起きあがる。私は子供の頃から、10数える習慣がある。もうちょっと、そのままでもいいが、やむなく次の行動に移らなくてはならない時、10数えるのである。たとえば、お風呂に入っている時もそうである。湯ごちが、肌に至極ここよくてなかなか上がれないのである。そう、その時10数えるのである。1、2……10で、いきおいつけて、「ザッ」と、上がるのである。私にとって、10数えるのは、何か次の行動に移る為の助走みたいなものである。そして10数えて、起き上がった私が、次にすることは、というとバルコニー二出て、お陽様おはようと、背伸びするのである。両手を、パーにして、手をいっぱい伸ばし、足を少し広げてつま先立つのである。こうすると陽の光をいっぱいにあびることができる。一瞬太陽が、私を包みこむ。それから叫ぶ、ジョリー、ジョリーおはよう、元気ノ(ジョリーというのは、私の飼っている犬のことである。)ジョリーが、私を見上げ、しっぽをピコピコ振りながら、ワンを挨拶する。それから、部屋に戻り、洋服に着がえ、洗面所へと、階段をかけ降りる。歯をみがき、

顔を洗い、ヘアースタイルを整える。そして、鏡の前で「ニッ」と笑って心の中で、よし完了とつぶやく。それから仕事に取りかかるのである。(仕事というのは、私にとって、大学に行ったりバイトに行ったり、あるいは、家にいて、家事をすることである。)

こうやって、私の一日は始まるのである。

喧嘩

商学部 二年 堤 伊一郎

だれにも覚えのあることだが、喧嘩をして気持がすつとした場合と、いつまでも後味の悪い場合とがある。勝敗の如何にかかわらない。

ペちゃんこにやつつけられても、すがすがしい思いをすることもあれば、だれが見ても、こちらの勝ちであっても、妙に心が滅入るときがある。喧嘩にもやり方があるので、同じやるなら、気持ちよく喧嘩をした

い。

喧嘩をするとき、こちらが軽蔑し切っている人間と争っても、ますますいやな気持になるだけで、負ければもちろん不愉快だし、勝っても少しも楽しくないだろうが、お互いに認め合っている同士の間なら、どんなに派手に喧嘩をしても悪い結果を来たすことは決してない。かえっていい結果をもたらすであろう。

人と争うのは、自分の主張を通そうというより、相手のやり方が気に入らない。自分の理想に合わないという場合の方が多いのであるから。

五月に思うこと

商学部 一年 中川 統博

世間一般で五月病と言われるシーズンに私はペンを取りこれを書いて
いる。福大へ入学して早くも一カ月という時間が流れたわけであるが、
信じられないことに書道部に私は在籍している。私としては、茶道部で
も、吟道部でもよかったわけであるが、書道部の人間関係が気に入って
入部し、現在に至っている。不統な動機（女の子）で入部した私ではあ
るが、知らないうちに書道に一生懸命になってしまっている自分に気付
いたのは、つい最近のことである。書道の魔力とでもいえばいいのだろ
うか、早々と書道にのめり込んでしまっている自分が不思議でならない。
半紙に向かって筆を打ち込む時の一瞬の緊張感、これは今まで私の味
わったことのないものであり、これが私が書道にのめり込んでいる最大
の理由でもある。（二時間も正座している姿を私の友人が見たら、おそ
らくあっけにとられてしまうことだろう）その結果、いくら私も落ち
着きが出て来たかに思えるが、これは気のせいであろうか？自分自身の
批評はしにくいのでやめにするが、一つ言えるのは後悔の残らぬように
努力するということであろう。書道だけでなく、全ての学生生活に於い
てである。よく「人生は結果だ」と言うふざけた者がいるが、私はそう
は思わない。結果がどうであれ、一つの理想を追い求めて努力する姿こ
そ、真の人間の姿であると信じて私は凝わない。 Do my best /

無用の用

経済学部 四年 古埜 雅文

「無用の用」という言葉がある。一見無用で、むだなものと思わ
れるものも、意外に役に立つことが、あるという意味である。
私は、大学時代においては、むだに見えるようなことを、もっとやるべ
きではないかと思う。

今、私達は、人生における基礎工事の段階であり、この時期に、たく
さんの捨て石のようなものを積んでおくことは、大切なことであろう。
一見、無用のような捨て石というのは、どのようなものか、私が思うに
それは 理論であり、また、物の道理のようなものである。

理論の対の意味として「経験」があるが、これのみで生きている人と
いうのは、ある一つの型に、はまって物事にすぐ満足してしまう。それ
では進歩がないように思える。理論をたくさん知っている人は、経験だ
けでは、満足しない 違った方向から、物事を見ることが出来る。私は、
これが「知恵」というものだと思う。

国力の要素の中で、軍事力以上に大切なものは、「知恵」であるとい
われています。

二十一世紀の日本を背負うのは、確実に私達である。資源のない日本
で、最も必要な、国力である。「知恵」の一端をになう者として 幅広
い知恵を、養うことは、大学生として、一つの義務ではないでしょうか。

今思う事

法学部 四年 鍋藤 利浩

時の流れと言うものは実に早く、時には自分自身の意志とは、変わり無く過ぎ去ってしまう事は、確かに感じていると思う。自分自身も四年になるまで流れた時というものは、一瞬の間であったが大学生活の中で、悔いのないと感じるのは、書道部に入っていたからであるとはっきり言えるのです。

「なぜその様に言い切れるのか？」この様に聞かれたとしたら即座に、「人間は一人で生きているのではない事を教えてくれたからだ」と答えるだろう。

現在社会では、今の若い者は三無主義であり五無主義でありその上利己主義な人間が多くなって来ていると言われているが、私が今まで関りあった書道部には、こう言う言葉などなく、一つの事柄にしても皆で真剣に討論し、又、殴りあった事もあった。それだけ部の事を考え又他人の事を考えて来たのである。だから利己主義だの三無主義だのといった言葉は存在するはずはなく、自主的な活動をして来たわけである。だから自分自身の事しか考え切れず何に対しても他人の事を考えない様な人間にだけには、私は、なりたくないと思っているし、現在部に入っている者にもその様な人間には、なってもらいたくないと考えている。

最後の荒鷲の投稿で取り止めのない様なものになってしまったが、四年間部活をするならその間に何かを自分自身の手で握むべきである。

「人間の一番美しい姿とは、他人の為に考え込む姿である」

過去から未来へ

商学部 四年 田原 信秀

いよいよ大学生活最後の春。ウキウキ気分で、さあ！頑張るぞ。と調子よくいけばいいのだが、そうもカンタンにいかないみたいでそこが世の中のしくみかもしれないが。

思い起こせば、三年前、60年代風の長髪で福大へ来て、書道部の部室のドアをくぐった。ここからバラ色？の大学生活が始まったのである。

酒にタバコにとおもいっきり金を使い、親に迷惑のかけつばなし。月に半月、同輩の下宿に入りびたりの事もあった。さいわい、部室には顔を出していたので、大学へ行っているという事になっていたが……。

これが現代の大学生さと顔で笑って、心で泣いて。どれだけ自分自身、身についたものがあつたのだろうか。いや俺は俺なりにやってきたんだとつづばつてみた所であと一年。親に安心もさせたいし、自分自身もみがいていきたい。後輩にも、もつともつと何か残してやりたい。気ばかりあせて、頭の中がこんがらがって……。しかし見ている俺だって無為にばかりし過ごしてきたのではない。後輩よ俺に向かって来い。そして何でもいい俺から吸収していけ。この大学生活で学んだ事。言葉だけじゃつまらん、行動で示せ。考える前に動け。まず前進、それから後を振り向いてもいいじゃないか。それがたとえ失敗に終わろうとも。押し寄せの行動じゃつまらん、何の進歩もなか、何の新しいものは生まれん。

こうして俺自身生きていきたいし、今までの三年間分を、この一年で集大成としてやって行きたい。

大小宴会場
割 烹

大 仙

天神店 中央区天神2丁目
TEL 721-0086

はかた店 博多区博多駅東2丁目4
TEL 411-7600

県公安委員会指定

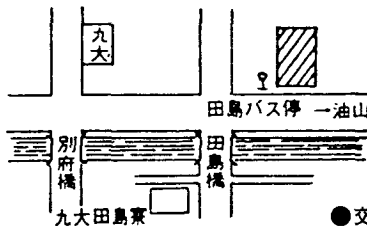
Nice Driving

実技試験免除

※各種ローンあり

Seat For You

学生証提示の方には特典があります。生協でも受付けています。
ローン制度もあります。



西福岡自動車学校

●交通至便 福岡市田島バス停前 ☎(092)751-2452~4 ●スクールバス 1時間毎に運行

掛軸、額縁、屏風表装一式

萬 年 堂

〒814 福岡市城南区鳥飼4丁目1-39
TEL (092) 821-7767

お食事処

大 吉 (福岡大学バス停前)

※クラブ・各種弁当予約承ります

TEL 864-0134

スチール家具・事務機・事務用品・D.E.P.

(株) 香 文 堂

福岡市南区大楠1丁目34-21 (日赤前)
〒815 TEL (092) 522-7141(代)

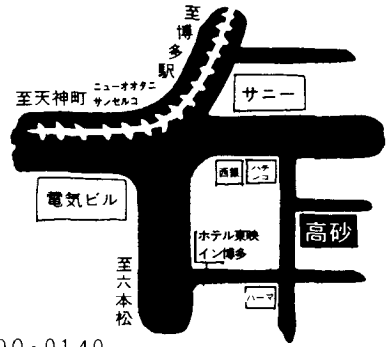
実技試験免除 (普通車、自動二輪車)

福岡県公安委員会指定

福岡市西区姪の浜1丁目1-67

姪浜自動車教習所

入所受付……毎日
入 所……毎週土曜日
電 話……881-1234 (代表)



大小宴会、コンパ、ご商談等にお気軽にご利用下さい。

〒810 福岡市中央区高砂1丁目4-14

TEL(531) 3500・0140

焼鳥・炉端 大将

城南区大字片江倉瀬戸129-5

TEL 863-9958

厚生大臣指定校

福岡調理師専門学校



今が決断の時、資格はいきがい。
スペシャリストにあなとも!!

昼間

夜間

定員……200名

定員……50名

修業年限……1力年(昼)

1力年半(夜)

入学期……四月

国家試験不要 調理士免許授与

入学資格：中高卒以上、男女年齢不問

他に喫茶スナック科・家庭料理

科もあります。

※就職率抜群

◇入学案内は左記へ◇

学校法人 福岡家政学園

〒810 福岡市中央区天神3丁目6-35

（タイムエーデンヨハリスより西方に歩いて1分）

☎092(761)6155代

。女子寮完備

福岡大学学術文化部会書道部 規 約

第一章 名称及び目的

第一条 本部は福岡大学学術文化部会書道部と称し、本学学生による書道愛好者の団体である。

第二条 本部は部員相互の親睦融和をはかり、人間形成を目指すと共に書道文化の普及、書枝の向上を目的とする。

第三条 本部は前条目的を達成するために次の事業を行なう。

- 一、書道に関する事業
- 一、書道に関する調査並びに機関誌などの刊行
- 一、関係団体との親睦ならびに連絡提携
- 一、各種展示会出品
- 一、その他前条目的達成のため必要と認めた事業

第二章 組 織

第四条 本部は講師及び部長各一名を置く。

第五条 本部は幹事、副幹事、会計、企画、庶務、渉外、その他必要とする役職を置き、本部を代表する。

第六条 本部は次の機関を置く。

- 一、役員会
- 一、部員総会
- 一、O・B会、但しO・B会規約は別に定める。

第三章 役員 会

第七条 役員会とは、部の円滑なる運営を期するための機関である。

第八条 本会は原則として、第五条に基づく役員によって構成される。但し、第五条に基づく役員以外であっても幹事が認められた場合には、本会に出席することが出来るが議決権はないものとする。

第九条 本会は幹事によって召集され代表される。

第十条 本会は毎月一回開くことを原則とする。

第十一条 本会の議決は、部員総会の決定を妨げるものではない。

第四章 部 員 総 会

第十二条 本会は本部の最高議決機関である。

第十三条 本会は本部の部員によりこれを構成する。

第十四条 本会には必要に応じてこれを開き、幹事がこれを兼務する。

第十五条 本会の議長は原則として、幹事がこれを兼務する。

第十六条

- 一、本部会は部員の過半数を以って成立する。
- 一、本部会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とし、可否同数の場合、幹事がこれを決定する。
- 但し、出席者の過半数の賛成で重要事項とし、その決定には

出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

第十七条 本部会不成立の際、出席者の三分の二以上の賛成を以って

仮議決することができる。但し、

- 一、仮議決については事後部員総会に於いて過半数の承認を必要とする。

- 一、重要事項は仮議決することはできない。

第五章 役員

第十八条 役員構成は第五条に同じ。

第十九条 第三条につき、外部関係諸団体へ役員を派遣することができる。

第二十条 幹事は本部を代表し、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその職務を代行する。

第二十一条 本部の役員改選は選挙制にし、これを重要事項と認め部員の無記名投票による選挙を行なう。

但し、委任状は認めるが、委任の方法は年度によって異っても良いものとする。

第二十二条 本部の役員の任期は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

但し、役員改選後、翌年三月三十一日まででは代行期間とし、その責任は新旧役員の連帯責任とする。

尚、欠員が生じた場合これを補充する。

第二十三条 役員改選は原則として十月に行なう。

第六章 役員の仕事

第二十四条 役員の仕事は次の通りである。

- 一、幹事は部務を処理し、部を統括する。

又、部の代表責任者であり、その責任を学術文化部会と部全体に負う。

- 一、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその任務を代行する。又、福岡大学書道部OB会の事務を担当する。

- 一、会計は部費徴収並びに部費予算に関する收支の記録決算書を作成。

- 一、企画は第一章第二条に定められた本部の目的にそって諸活動を企画する。

- 一、庶務は本部の活動に必要な諸事務を行ない、資料の徴収保管をなし、機関誌の発行を行なう。

- 一、但し、機関誌の発行は年一回とする。

又、第五章第十九条に基づく役員は、本部関係諸団体との親睦融和を図り部の向上を目指す。

第七章 会計

第二十五条 本部の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第二十六条 本部の部費及びその他の所定納入金については、前年度末に部会に於いて決定しなければならない。

第二十七条 会計報告は会計が行なう。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告書を作成し、これを報告する。

第八章 部員の権利義務

第二十八条 本部の役員は次の権利を有する。

一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。

一、本部の役員総会に出席し、その議決に参加すること。

一、本部に於ける選挙権、被選挙権を有する。

一、本部の備品及び図書を利用すること。

第二十九条 本部の部員は次の義務を負う。

一、部員は部員総会に出席すること。

但し、やむなく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならない。

一、部員は部員その他の所定納入金を定期に納入すること。

一、本部の規約に従うこと。

第九章 入部・退部

第三十条 本部の入部は年度始め募集することを原則とし、学文会登録及び入部金納入を以って部員とする。

本部の退部は書面を以って幹事に願い出て、役員会の承認を得、部員に通達する。

但し、退部を希望する者は、その在籍期間までの所定の納入金を完納する。

第十章 罰 則

第三十二条 書道を研究する熱意なく本部の名誉を汚したる者、部活動を理由なくして一ヶ月以上怠った者。又、部の秩序を乱す者は部より除名する。

但し、欠席届提出者についてはこの限りではない。

第十一章 規約改正

第三十三条 本部規約改正の発議は部員総会に於いて部員の四分の一の同意により総会の議決を経て行なわれる。

尚、改正においては、本部員の三分の二以上の出席を必要とし、その出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附 則

附 一 本規約は、昭和三十五年より実施、昭和四十五年四月一日改正。

第二十七条 会計報告は会計が行なう。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告書を作成し、これを報告する。

第八章 部員の権利義務

第二十八条 本部の役員は次の権利を有する。

一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。

一、本部の役員総会に出席し、その議決に参加すること。

一、本部に於ける選挙権、被選挙権を有する。

一、本部の備品及び図書を利用すること。

第二十九条 本部の部員は次の義務を負う。

一、部員は部員総会に出席すること。

但し、やむなく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならない。

一、部員は部員その他の所定納入金を定期に納入すること。

一、本部の規約に従うこと。

第九章 入部・退部

第三十条 本部の入部は年度始め募集することを原則とし、学文会登録及び入部金納入を以って部員とする。

本部の退部は書面を以って幹事に願い出て、役員会の承認を得、部員に通達する。

但し、退部を希望する者は、その在籍期間までの所定の納入金を完納する。

第十章 罰 則

第三十二条 書道を研究する熱意なく本部の名誉を汚したる者、部活動を理由なくして一ヶ月以上怠った者。又、部の秩序を乱す者は部より除名する。

但し、欠席届提出者についてはこの限りではない。

第十一章 規約改正

第三十三条 本部規約改正の発議は部員総会に於いて部員の四分の一の同意により総会の議決を経て行なわれる。

尚、改正においては、本部員の三分の二以上の出席を必要とし、その出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附 則

附 一 本規約は、昭和三十五年より実施、昭和四十五年四月一日改正。

将 大 炉端 焼鳥

城南区大字片江倉瀬戸129-5 TEL863-9958

飲んで・歌って

焼鳥 あかし

原・尾崎の店

城南区田島四丁目17-18 (田島派出所斜前)
TEL (844) 3325

焼とり権兵衛第21号

権兵衛館^{やかた} てんじん

天神3丁目天神横丁
でんわ 761-2684

バイク販売・修理の店

MARUSEI

JONAN-KU NAGAO 5 30 17 TEL871-0008

TAGAWASHITEN TEL094763-2980

襖・表具・材料一式

株式
会社

GS タカハシ

福岡市中央区天神3丁目10番10号
TEL 741-3231 (代)

福岡大学書心会
規 約

改正

昭和五十六年一月一日
昭和五十九年一月十六日

第一章 総 則

第四章 役 員

第一条 本会は福岡大学書道部書心会と称する。

第八条 本会は次の各号の役員を置く。

第二条 本会は事務室（本部）を福岡大学書道部に置く。

一、会長（一名）

第三条 本会は支部を置くことができる。

二、副会長（一名）

第二章 目的及び事業

第四条 本会は会員相互の親睦を図り、書道文化の普及、向上に努めると共に福岡大学書道部の後援を行ない以って斯道に貢献する事を目的とする。

一、副評議委員長（四名以内）（会計兼務）

第五章 役員 の 職 務

第五条 本会は前条目的達成の為次の事業を行なう。

第九条 本会の役員は次の職務を行なう。

一、書道の振興に関する事業

一、会長は本会を統轄し、且つこれを代表する。

一、書道に関する研究物、機関誌等の刊行

一、副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。

一、関係諸団体との親睦及び連絡提携

一、各種展示会出品

一、評議委員長は、評議委員会を統轄し、且つこれを代表する。

一、其の他前条目的達成の為必要と認めた事業

一、副評議委員長は、評議委員長を補佐し、評議委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第三章 組 織

第六条 本会正会員は福岡大学書道部員として登録をなし卒業をした者を以って構成する。但し強制するものではない。

一、評議委員は書心会の企画、立案にあたる。

第七条 本会に總會、評議委員会を置く。

第十条 役員の任期は二年間とし、定例總會に於いて選考するものとする。

第六章 総 会

第十一条 総会は書心会の最高決議機関である。

第十二条 書心会総会は会員を以って構成する。

第十三条 書心会総会は次の各号の場合、書心会会長がこれを召集する。

一、定例総会（年一回）

一、会長が特に必要と認めた場合

一、評議委員会が必要と認めた場合

第十四条 書心会総会は出席会員を以って成立する。

第十五条 書心会決議は出席会員の過半数を必要とし、同数の場合は

議長がこれを決定する。

第十六条 書心会総会議長は書心会会長がこれにあたる。

第七章 評議委員会

第十七条 書心会の執行機関として本委員会を置く。

第十八条 評議委員会は評議委員をもって構成する。

第十九条 評議委員は次の各号の場合、評議委員長がこれを召集する。

一、会長が必要と認めた場合

一、評議委員長が必要と認めた場合。

第二十条 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第二十一条 評議委員会議長は評議委員長がこれにあたる。

第八章 会 計

第二十二条 本会の会計年度は毎年一月一日より始まり十二月三十一日に終わる。

第二十三条 本会会費は総会に於いて決定する。

第二十四条 会計は総会に於いて、その年度の会計報告を行なうものとする。

第二十五条 会員は書心会運営費用として毎年三月三十一日までに会費納入の義務を負う。

第九章 入会及び退会

第二十六条 入会については、第十七条に該当するもので且つ、本人の申し出によるものとする。

第二十七条 書心会をやむをえぬ事情の為、退会する場合は書面をもつてすみやかに申し出る事。

第二十八条 書心会を退会し、再入会の申し出があった場合、評議委員会の承認を得た者について入会を認める事がある。

第二十九条 書心会で本会の名誉を毀損し、また会員としての体面を汚し、もしくは不都合な行為があった場合、総会の決議により退会を命ず。

第三十条 二年間会費を滞納したものに於いては退会を命ず。

第三十一条 本会規約の改正は評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上の賛成を得なければならない。

第十一章 附 則

第三十二条 本約規は、昭和五十九年一月十六日から施行する。